

2007 年度卒業 / 2008 年度入学記念

# どこでもドアのかぎ 12

石原和夫先生退職記念号



## ほんものの本と出会うために

ほんものの本の中には、たくさんのもが詰まっています。

ほんものの本は、知識や理解を与えてくれるだけでなく、夢や、冒険や、驚きや、発見や、謎解きの楽しさや、感動や・ ・  
とてもここには並べきれないほどの、数々の贈り物を私たちに  
与えてくれます。ほんものの本は、たとえ手のひらに乗るほど  
小さくても、一つの世界を、一つの宇宙を持っています。

数え切れないほどの本の中で、ほんものの本に出会えないま  
ま、読書のよこびから遠ざかってしまう人が少なくないのは、  
とても残念です。そこで、一人でも多くの人に、幸福な出会い  
をしてもらうために、みんなで知恵を出し合って、47冊の本  
をお薦めすることになりました。

ここにあるのは、47の世界です。そして、本の表紙はその  
世界に通じる扉なのですから、扉を開ければ、あなたはそのまま  
別世界に旅立てるのです。そう、まるで「どこでもドア」の  
ように。

それでは、あなたの手で開かれるのを待っている扉たちをご  
紹介しましょう。

県短生協教職員委員会

# どこでもドアのかぎ 12

## 目次

### 特集 石原和夫先生ご退職

石原先生といふ人 板垣俊一.....	5
石原先生お世話になりました。 澁谷義彦.....	6
石原先生に感謝、深謝 宮西邦夫.....	7
石原先生 ありがとうございます 福嶋秩子.....	9
43年の重さ 大桃伸一.....	10

### おすすめの本

石原和夫 (食物栄養専攻) .....	12
田中 景 (国際教養学科) .....	13
小谷一明 (英文学科) .....	14
小澤 薫 (生活福祉専攻) .....	15
鶴巻悦子 (図書館) .....	16
戸潤幸夫 (幼児教育学科) .....	18
石川伊織 (国際教養学科) .....	19
柳町裕子 (国際教養学科) .....	22
水上則子 (国際教養学科) .....	22
福本圭介 (英文学科) .....	23

## 特集 私が泣いた本

田中 景	(国際教養学科)	25
小谷一明	(英文学科)	25
クルソン	(英文学科)	26
小澤 薫	(生活福祉専攻)	28
黒田俊郎	(国際教養学科)	28
石川伊織	(国際教養学科)	29
佐藤恵美子	(食物栄養専攻)	32
水上則子	(国際教養学科)	33
柳町裕子	(国際教養学科)	33
澁谷義彦	(英文学科)	34
植木信一	(生活福祉専攻)	35
太田優子	(食物栄養専攻)	36
福嶋秩子	(英文学科)	37

## 〈「私が泣いた本」 バックナンバーより〉

第2号	39
第3号	39
第4号	40
第8号	40
第9号	43
第10号	44
第11号	45

特集  
石原和夫先生ご退職

石原和夫先生は  
県立新潟女子短期大学で  
43年間、教鞭を取られ  
県短生協設立発起人、理事、  
第四代理事長を務められました。  
そして本年3月、  
ご退職の日を迎えられます。

石原和夫先生  
どうもありがとうございました。

県短生協一同

## ✿ 石原先生といふ人

石原先生が本学に着任されたのは 1965(昭和 40)年のことでした。遠い遠い遙か昔のこのやうに思はれますが、何と着任のころはまだ二十歳を過ぎたばかりで花の盛りのハンサムな好青年だったのです。私がそれを知ったのは以前本学の記念誌を作ったときに出てきた一枚の写真でした。今も図書館のどこかにあるはずです。そんな先生はスポーツも大好きでした。私は三日坊主でしたがテニスで御一緒したことがあります。また、先生は豊栄に御住まひで、教育研究の多忙な合間を縫って自然とも触れ合はんとしてみたやうです。御住まひは野鳥の樂園ともなつてゐる福島潟に近いため、福島潟の野鳥観察会の会長もなさつてみました。冬の渡り鳥ヒシクヒの大群が飛ぶ感動的な情景について目を輝かせて語るのも石原先生です。先生はもともと富山県の御出身ですが、味噌・醤油など日本の食文化に欠かせない大豆発酵食品の御研究のほかに、雪国ニンジンの香気成分の御研究などによつて新潟県の地場産業にも大きな貢献をしてきたのです。

石原先生、43 年間ご苦労様でした。

国際教養学科 板垣俊一



## 石原先生お世話になりました。

県立新潟女子短期大学生生活協同組合元理事長の石原先生が今年度でご退職になります。石原先生の本学勤続年数が43年と知り感服しました。県短そして生協への多大なご貢献に感謝申し上げます。

石原先生の思い出を今あらためて書こうとすると、あまりにもありすぎて何を選び出したらよいものか迷ってしまうほどです。公私ともども27年間もお付き合いをいただいたのですから不思議ありませんね。

私が本学に赴任したときは、教員のテニスクラブがあり、毎日夕方になると現在の岸井学長や、初代生協理事長故松木先生、石原先生、佐々木先生がテニスの練習に励んでおられまして、私もその仲間に加えていただきました。練習が終わった後のビールの味は格別でしたし、お酒を酌み交わしながらの人生論や教育論からは学ぶことが本当に多かったと思います。文字通り「ご指導ご鞭撻」を受けました。

石原先生から学んだ多くのものの中から一つだけ挙げるとすれば、学生の言葉に真剣に耳を傾ける姿勢です。まずじっくりと学生の話聞いてから、アドバイスをすること、これは簡単なようですが、面倒くさがる私にはなかなかできないことでした。石原先生は学生に対して常にそのようにしておられました。正確に言えば、石原先生のお子様に対して小さい頃からそう接しておられたように隣人の私には見えませんでした。二人のお子様は兄弟げんかの原因をお父さんに一生懸命に主張しておりました。先生が学生部長のときは学友会学生の報告や意見を、生協の理事長のときは学生理事の発言を真剣に聞いておられました。実は、この姿勢こそ大学生協の理想の姿勢でもあるのだと今気づきます。学生のニーズも時代とともに変化しますが、まず組合員である学生の声に真剣に耳を傾けること、これが大学生協の出発点なのだと思うのです。石原先生お世話になりました。

生協監事 澁谷義彦

## 石原先生に感謝、深謝

“人は城、人は石垣、人は国”という武田信玄の名言にある“石垣の石”を想わせる程の“存在感のある先生”というのが、本学に赴任した15年前の最初の印象でした。

爾来、石原先生は私にとりまして、正に城であり、石垣であり、国でありました。当時、本間伸夫先生、石原和夫先生に私の邦夫と名前に夫があり、ご縁の深さも感じました。

今、城は拠点、石垣は防塁、国は国民一人ひとりが支えるもの…と考えると、正に石原先生は“人”として本専攻、本学を支え、多くの教育業績と人材育成に邁進され、尽力されました。あらためて、心服、感謝、深謝申し上げます。

平成5年の生活科学食物栄養専攻への改組、平成7年の専攻科の創設等、ご苦労、ご心痛は計り知れなく、浅学菲才の私には到底理解できない程であったでしょう。

特に、学科卒業生及び専攻科修了生の進路確定100%が専攻内教員の悲願でした。何度も、2人で就職活動に出掛け、それぞれの専門分野の職場と連絡を密に取り、情報収集に余念なく取り組んできた気がします。

富山市内の栄養士(管理栄養士)派遣会社で専攻科修了生の人事に関わる一連のエピソードがあります。当時、専攻科の主任をしていた私のミスの経緯をお聞きになり、“富山県立山町出身であり、同行しよう…富山県人気質と企業体質は解っているから”と言って下さり、学長に経緯の説明と事後処理の許可を得、現地に向かいました。

会社の玄関に入り、担当部長の指示で着席するなり、“お前は、学生にどの様な就職指導をしているのだ！！”と怒鳴られました。私も長年、生きてきておりますが、“この様な経験は初めて”、足は震え、頭は真っ白、正に臨戦態勢、少年時代からのガキ大将、悪ガキであった頃の喧嘩魂が目覚め、「今までの経緯を含め、論破、罵倒して即刻離席しよう！」と思った瞬間…、富山までの車中、“お前は短気だから、絶対に怒るな、また、喋るな、只管、謝れ！”と言われたことを思い出し、一言、“申し訳ありませんでした”と平身低頭…で帰路につきました。石原先生には、“よく、あれほど、暴言されて我慢したな…”、“俺も側で聞いていて、カッとなってしまったよ”と慰められました。寧ろ爽やかな気持ちが残り、これは一生のお宝経験だったな…と実感した次第です。帰学し、飯田学長に報告、“今後の本学の就職活動のためにも貴重な経験でしたね、お疲れ様でした”と言われ、これまた、有り難いお言葉でした。因みに、担当部長は翌年、退職されたことを風の便りで聞き、元気のある、私を罵倒した稀な方であった

のに、残念…とと思いました。

人は城、人は石垣、人は国…、大学の教員が正に、城、石垣、国であるとの自覚がなければ、維持も管理も、また、発展も望めない…との深慮遠謀をお持ちであったのではないかと、石原先生の退官目前に、漸く気付いているところです。先生との出会いは、人として、城、石垣、国の在り方を学ばせて頂いた、私にとりまして、信玄公であり、信玄袋に一生入れておかなければならない貴重な財産なのです。いつまでも、お健やかで、福島潟の英気にふれながら、後進の行く末を見守り頂ければ幸いです。

食物栄養専攻 宮西邦夫



## 石原先生 ありがとうございます

石原先生は、2008年3月、県立新潟女子短期大学での長年のお勤めを終え、退職されます。定年を2年ほど先に控えた2年前の今頃、石川先生と2人で研究室をおたずねしました。県立新潟女子短期大学生協の第4代理事長に就任して下さるようお願いするためです。石原先生は県短生協立ち上げのころから、陰日向になって生協を助けてくださっていました。四大化を控え、生協の運営の現状だけでなく、四大化後の生協の存続に向けての諸問題への対応も必要な状況についてお話をしました。先生は最初固辞されましたが、私たちの話を穏やかに聞いてくださり、最終的に受けてくださいました。おかげで、私は心置きなく生協の理事長を辞することができました。

石原先生は、普段穏やかな方ですが、筋の通らないことについては厳しくご指摘くださいました。現在、女子短大、生協とも、将来の変化に向けての重大な局面にあります。これからも折々にご指導ご鞭撻いただきたくお願いいたします。

県立新潟女子短期大学生協理事長 福嶋秩子

## 43年の重さ

石原和夫先生は、昭和40年4月まだ設立間もない県立新潟女子短期大学に赴任され、実に43年の長きにわたって本学の発展ために力を尽くされ、四年制大学への準備が本格化したこの3月に定年退官されます。石原先生の県短での歩みは、まさに県短の歴史そのものです。私は偏差値云々よりも、その教育と研究の質においてわが県短は全国でもトップレベルの短期大学であると確信しておりますが、そうした歴史と伝統を築いてこられました石原先生に心から感謝申し上げます。

私は26年前に県短にお世話になりましたが、そのころは先生方の間ではテニスが盛んでした。それまで一度もテニスをやったことのなかった私は、石原先生をはじめ諸先生方に教えられながら放課後や土曜日にテニスを一緒にさせてもらいました。石原先生のテニスは実に安定感があって正確で、真面目で誠実な先生のお人柄がよくあらわれているものでした。そして、石原先生のペアは、試合の勝率がとても高かったように記憶しています。

そのころは、秋になると学生や県庁の文書私学課とソフトボールの試合をした後、阿賀野川の河川敷に鍋をもっていきました。そして、サトイモ、牛肉、野菜などをいれた「芋煮」をみんなで作って、食べたり飲んだりしました。芝生のうえて車座になり、風に揺れるすすきを眺めながら、学生のこと、県短の将来のことなどを語り合ったのがつい昨日のように思い出されます。

このように書くとき昔は遊んでばかりいたように思われますが、石原先生は毎日夜遅くまで研究をされており、日曜日にもよく出勤されてお仕事をされていました。そして、学生をとても大切にされていました。

あの頃は、時間がゆったりと流れていました。私は、先生方がおおらかにゆったりと生き、自分の研究に打ち込みながら、学生と夢を語り合うのが大学教育の原点だと考えます。今は結果が求められる時代ですが、教育には時代を超えて求められる価値があります。石原先生は43年間の県短生活のなかでそうしたものを作ってこられました。そうした県短の伝統を四年制大学に引き継いでいきたい、というのが私の願いです。

石原先生、長い間ありがとうございました。

幼児教育学科 大桃伸一

読んでみませんか

 おすすめの本



食物栄養専攻

石原和夫

## 永遠平和のために・カント

Immanuel Kant

発行：綜合社

発売：集英社

常に地球上のどこかで紛争や戦争が起こっているが、日頃、何故なのだろう、どうしたら平和が得られるのか思っていたところ、哲学者・カントが平和について語ってくれました。一部紹介すると、「永遠平和は空虚な理念ではなく、われわれに課せられた使命である」（池内訳・p49 より）とあり、「永遠平和」はわれわれの生き方にかかってきますね。

わかりやすく、親しみやすく訳してありますが、新書版の大きさと100ページ余りの小本であるため割高に感じるとは思いますが、「永遠平和」のためにぜひ読んでみてください。

## 食糧争奪

柴田明夫

日本経済新聞出版社

ここ数十年、余剰が続いてきた世界の穀物市場が、バイオ燃料の生産拡大や中国などでの需要増加で、世界的な需給が急速に逼迫してきた。その結果、日本国内では山崎製パンが食パンを24年ぶりに値上げ、そのほか家庭用パスタ、マヨネーズ、カップ麺などの値上げが続き、さらに今後、飼料のほとんどをトウモロコシや大麦など海外の穀物に依存しているため、国産の肉や卵など畜産食品への影響も避けられない状況になってきたことは皆さんもご存知だと思います。本書は、全世界による限りある食糧の争奪戦を克明に描き、われわれの果たすべき役割を示している。日本の食が世界から取り残されないために、ぜひ、一読を。



## その名にちなんで

ジュンパ・ラヒリ (著)

新潮文庫

アショケは、コルカタに住むミドルクラスのベンガル人青年。ある日、乗っていた列車が脱線事故に遭いますが、手に持っていたゴーゴリの小説のおかげで、彼は九死に一生を得ます。新たな生を得たアショケは、故郷から遠く離れたアメリカへ渡り、そこで人生を切り開いていきます。やがてボストンで大学教員となったアショケは、同じベンガル人のアシマと見合い結婚をし、命を救ってくれた小説の作家の名にちなんで、生まれた息子をゴーゴリと名づけます。ゴーゴリは成長するにつれ、両親やアメリカのベンガル人社会、そしてインドの文化に対して違和感を持つようになります。物語は、まるでいろいろな色の糸を織り込みながら一つの布地を仕上げていくように、ベンガル系アメリカ人家族の歩みを、ゴーゴリを主人公としながらも複数の人々の視点から織りなしていきます。著者のラヒリがベンガル系アメリカ人であることからもうなずけるのですが、そこには「インド」と「アメリカ」の狭間で揺れる移民一世と二世の人々の心の動き、そして自分自身を模索し、人生を創り上げていくことへの戸惑いと家族の意味が、実に見事に描かれています。



## テロル

ヤスミナ・カドラ

ハヤカワepiブック・プラネット

強烈な印象を残した本です。イスラエルのパレスチナ人が、知られざる妻の過去を求め、パレスチナへと入り込みます。パレスチナのジャンニンは、まさに死者の町として悲しみがあふれ怒りが立ちこめます。アフガニスタンを舞台にした『カプールの燕たち』（ハヤカワepiブック）も壮絶でした。作者はアルジェリアの元軍幹部であり、アルジェリア独立戦争と政治混乱の知識と体験をもとに、紛争文学を書き上げています。新作ではバグダッドが舞台です。アルジェリア在住の頃は、女性の偽名を使って執筆をしていました。現在はフランスへ亡命し作品を書いています。2007年はカダフィ政権下を描く『リビアの赤い実』、クルド人文学の『父さんの銃』、ナイジェリア出身作家の『アメリカにいる、きみ』などアフリカ・中東の良書が新聞の書評で紹介されました。

## 暗闇のなかの希望

レベッカ・ソルニット

七つ森書館

2007年の春にこのエッセイ集と出会いました。ちょうどアリス・ウオーカーの近作短編集を買ったときであり、二人の本に圧倒されながらの新学期スタートでした。ソルニットはエッセイ作家であり、該博な知識と市民運動の経験などを作品に織り交ぜます。彼女の弟は今年『ショック・ドクトリン』を出版したナオミ・クラインも言及する活動家デイヴィッド・ソルニット。レベッカ・ソルニットは弟を市民不服従の作家ソローの後継者として慕い、捕まったときは保釈金の援助などで助けています。西海岸を中心に活躍していますが、西部の作家エドワード・アビーのようなすごい活動家が西部には多いなあ実感します。本書では9.11以降の政治と経済に希望を持っていないなかで、これまでの市民活動をふり返ります。2007年の春に亡くなったカート・ヴォネガット『国のない男』と並ぶ深みのあるエッセイ集でした。



生活福祉専攻

小澤薫

## 「福祉」が人を殺すとき

寺久保光良  
あけび書房

大学生のときに手に取ったこの本が、いまの自分の第一歩だったのかもしれませんが。1986年に札幌市でおこった餓死事件を扱ったルポルタージュです。様々な取材を通して、多角的に考察しています。そこからなぜ憲法で生存権が保障されているこの国で、幼い子どもたちを残して母親が餓死をしなければならないのか、なぜ福祉行政は守るべき国民を生活保護制度から遠ざけようとするのか、僕らの払う税金はなぜ必要としている人に届かないのか、怒りがこみ上げてきました。昨年（2007年）にも、北九州で、「おにぎりを食べたい」という日記を残して、生活保護を打ち切られたまま男性（52）が餓死をするという事件が起こりました。札幌の事件から20年という時の流れは、私たちの社会をどのように変えてきたのでしょうか。



## カラマーゾフの兄弟（1～5）

ドストエフスキー著  
光文社

「いま、息をしている言葉で、もう一度古典を」と創刊された光文社古典新訳文庫の一冊です。50万部という、古典としては異例のベストセラーとなりました。亀山郁夫・東京外語大学長が「全力を傾けて読みやすい訳を目指した。若い人には是非読んでほしい。」とTVや新聞で語っている言葉に惹かれて読み始め…はまってしまいました。

この大長編、学生時代には手がでなかったのに、勢いによって読了。すぐに大学生の娘に宅急便で送りました。そのときのメール「とにかく読んでみて。各巻の巻末にある訳者の“読書ガイド”を先に読んだほうが良いと思う。人名がややこしいけど、親切にも登場人物を記した“しおり”がついている。最初がとっつきにくかったら小学生イリュージャが出てくる場面から読んだら、と大江健三郎がアドバイスしていますよ。」

舞台は不穏な時代を迎えた19世紀後半ロシア。放埒な父フョードル、粗野だけれど憎めない長男ドミトリー、次第に狂気にさいなまれてゆく次男イワン、その影のような下男スメルジャコフ、善き人・三男アリョーシャが入れ代わり立ち代わり主人公になり、居合わせた人がそれぞれ勝手にしゃべったり騒動を起こしたりします。これはドストエフスキー作品の特徴で多声性（ポリフォニー）、カーニバル性といわれるものです。父殺しの犯人は誰かというミステリー仕立てかと思うと、大審問官と“あの人”キリストをめぐる叙事詩が語られたり（宗教的、思想的背景を知らないとなかなか読めず、とても盛りだくさんです）。

文体のせいもあって前のめりにどんどん読んでしまいますが、大波にもまれ翻弄されたという感じです。その先に何かあるのかわからないまま、ドストエフスキーが差し出しているテーマを見失ってしまう怖れもあります。しかし、私自身がその場に居合わせ、共に生きた、人間をととても深く知ったという読後感を持ったことは確かです。

# 21世紀 ドストエフスキーがやってくる

大江健三郎ほか  
集英社

ドストエフスキーの作品は文庫でいくつもでています。私が読んだものから…『貧しき人々』（原久一郎訳 新潮文庫）には胸がいっぱいになり、『地下室の手記』（安岡治子訳 光文社古典新訳文庫）で気が滅入り、『罪と罰』（上・中・下 中村白葉訳 岩波文庫）では老婆殺しの大学生ラスコーリニコフと無垢なる娼婦ソーニャが対峙する場面が深く心に残りました。『白痴』（上・下 木村浩訳 新潮文庫）のムイシュキン公爵、『悪霊』（上・下 江川卓訳 新潮文庫）のスタヴローギンなど、どうしてこんなに特異な人物たちを創造できるのでしょうか。

読み出したらやめられなくなるドストエフスキー、複雑で深遠なドストエフスキーには、道案内が欲しくなります。専門家でも読み尽くせない膨大な文献が書かれているそうですが、研究書や本格的な評論は数居が高い、と思っていたとき見つけたのが本書『21世紀 ドストエフスキーがやってくる』です。今の時代にどう読まれているか、どんな切り口で読み解かれているか、映画など他のジャンルや世界中の国々にどんな影響をもたらしたか、その概観を知ることができるので、作品を読む良い手がかりになると思います。

いくつかの対談のなかでも、加賀乙彦と亀山郁夫の議論は作家（精神科医でもある）と研究者のとらえ方の違いが面白く読めました。ロシアの作家アクーニン（悪人！）が「ドストエフスキーは、書かれた小説が本人の力量？をはるかに超えている、これこそ作家の才能だ」という趣旨のことを言っているのになるほどと納得し、「ドストエフスキーはロシアがどういう国かを論理ではなく感情的に教えてくれる」というのも本当にそう思います、例えばアリョーシャが大地に接吻するような場面に。

楽しかったのは、ロシア文学者・井桁貞義が『罪と罰』を取り上げた講義風景。学生は先生から触発されて、遠藤周作にも、太宰治にも、手塚治虫などのマンガにも『罪と罰』がリンクしている！と発見し、読みを深めてゆきます。学生たちの豊かな反応にすっかり感心しました。



## イメージの力

ルネ・ユイグ著  
美術出版社

一昨年絵画の入門書として、分かりやすくイラスト入りで編集された視覚デザイン研究所編「名画に教わる名画の見方」シリーズを紹介しましたが、本格的に美術史等を勉強したい人にはこの本をお薦めします。

初版本は、40年前に発行されていますので図判は白黒で文体も難しいですが、絵画芸術のすばらしさを見事に分析、解説した美術史のバイブル的書物です。美大生の頃、絵画とは何か、画家は何を表現すべきかいろんなかたちで古典絵画の素晴らしさに気付かせられ、現代美術の存在価値を考えさせられた一冊です。ルネ・ユイグはルーブル美術館絵画部長からコレージュ・ド・フランス教授として活躍された方で、日本の美術評論家の多くに影響を与えました。「芸術は哲学」であると気付かせてくれます。

## 宮大工千年の知恵

松浦昭次著  
祥伝社黄金文庫

日本の伝統文化に触れたいと思ったら、京都・奈良に行きたいと思います。それは、日本の木造建築の美しさに触れたいという想いがそうさせるのだと思います。

昔の大工の知恵、技術を知るには最高の本と言えます。昔気質とかん意気の素晴らしさがこの一冊に凝縮されています。私はこの本を読んで、紙と木の文化日本が大好きになりました。



## ショコラ

ジョアン・ハリス  
角川文庫

この、おいしそうなタイトルの小説は、映画にもなったので御存知のかたもいらっしゃると思いますが、なかなかどうして、へんてこな作品です。流れ流れてフランスの片田舎にやってきた母子が、チョコレートのお店を開きます。ところが、閉鎖的な田舎の村で差別の対象に……。しかもこのお母さんという人があまり信心深くないものだから、魔女ではないかとうわさが立って……といっても、これ、中世ではなくて現代のお話なんです。どうやら、キリスト教以前の信仰が民衆の根っこのところにはまだ生きていて、これが村の生活の排他性と結びついて、余所者に対する強烈な差別を生み出している……。深読みするとなかなか問題をはらんだ小説ですね。でも、出てくるチョコレートはおいしそうですよ。

## ジョン・レノンを聴け！

中山康樹  
集英社新書

1980年12月、ニュー・ヨークの自宅、ダコタ・アパートの前で、ジョン・レノンが射殺されてしまいます。でも、この知らせを聞いた日のことは、私はまるで覚えていません。あまりのショックで記憶が飛んでいるのです。それから数日間、“Happy Xmas (War is over)”をエンドレスで聴き続けたのは覚えています。この曲、ジョンとヨーコの共作ということになっていますが、オノ・ヨーコの書いた部分はリフレインの‘War is over, if you want it.’の歌詞だけだとか。この情報は中山さんのこの本から仕入れたのですが、中山さんは、ジョンの曲のメッセージ性が何とかではなくて、彼はとにかく歌がうまかったんだ、ということを強調したくてこの本をお書きになったようです。そういうふうにあえて言われると、私は逆にメッセージ性に引き込まれてジョンを聞いていたのだなあというのが、改めてよくわかります。でも、ジョンって歌がうまかったかなあ、というのも私の感想。ビートルズの時代もそうだったけれど、解散してソロになってからも、ジョンのライブは、気分が乗っているときとそうでないときの落差が激しくて、下手な演奏は徹底的に下手くそでした。とはいえ、やっぱり、「ジョン・レノンを聴け！」です。名曲ぞろいですから。

# 高校生のためのメディア・リテラシー

林直哉

ちくまプリマー新書

最近、よく、「メディアの話をしてくれ」とか「マンガやアニメのことを話して！」と頼まれることがあるのですが、こういう依頼の背景には、「マンガやアニメや最近のメディアは、青少年によろしくない内容が多くて、性差別的だったり暴力的だったりするのだけれど、こういうものとどう付き合ったらいいの？」という問題意識があるようです。実際、皆さんのネットとの付き合い方を思い出してもらえばわかるだろうけれど、私たちはネットに情報を送り出す側でもあるのですね。でも、こういうふうに考える人たちは、自分をメディアの受け手としか考えていません。いまや、マス・メディアみたいな一方通行的なものはむしろ衰退の方向にあります。インターネットみたいに双方向的なメディアこそ、本当の、そして本来のメディアでしょう。ですから、「受け手」としてだけメディアと関わっていると考えerるのでは不十分です。林さんのこの本は、「私たちはメディアの送り手でもある」という視点で書かれた、メディア・リテラシーを扱った書物としては稀有な内容のとてもよい本です。高校生向けだけれど、読むと元気になります。

# バリバリのハト派 女子供カルチャー反戦論

荷宮和子

晶文社

腰巻のキャッチコピーにこう書いてあります。「『ベルサイユのばら』は自由と平等と博愛をあきらめない！」。荷宮さんは言います。《少女マンガや手塚マンガ、宝塚というのは本質的に女・子供の文化で、この文化の基調は平和と自由と平等である！だから、みんなでマンガとヅカにはまって、反戦をやろう！！》。「ハト派」という言葉も、「女子供」という言葉も、ここでは決定的にプラスの意味で使われているのに御注意！！ 爺さんたちには日本は任せておけない……かもね。とは言え、ヅカの創始者は阪急電鉄の創業者だった小林一三。東京や大阪の私鉄にはよくあるのだけれど、都心のターミナルには駅に隣接して電鉄会社経営のデパートがあって、沿線には住宅地があって、郊外の終点には遊園地や行楽施設があるという形は、実は小林一三の阪急や東京の小田急電鉄が始めたもので、もとはというと、オヤジたちの合理的な金儲けの方法だったんですね。文化の面白いところは、創始者の意図とはまるで違った展開をすること。効率的な経営のための手段だったものが、女子供文化の代表になり、荷宮さんにとっては反戦カルチャーになったわけ。

# まるごとパリの撮り歩き

星野秀夫  
株式会社ウエイツ

これはスゴイ！ パリの観光案内なんだけど、同時にデジカメ写真の撮り方の教科書でもある、という本。マドレーヌ寺院のページでは、まず観光案内。それから、写真の撮り方です。暗い教会のなかで写真を撮るには高感度で撮る必要があるけれど、そうするとノイズが多く発生します。それをどうするか工夫が説明されます。手ブレ防止も大切ね。コンコルド広場のページでは、パノラマ作成ソフトの使い方の説明。こんな調子で色んな観光名所が解説されます。掲載されている写真はどれもカラーでとても美しいし、分かりやすい地図がこれまた楽しい。地図には撮影ポイントとアングルの説明まで入っています。このやり方で書かれた、京都や東京や神戸の観光案内があると面白いのにな。新潟の観光案内でも作ってみましょうか？ 写真を上手に撮りたい人は必読です。



国際教養学科

柳町裕子

## 字幕屋は銀幕の片隅で日本語が変だと叫ぶ

太田直子  
光文社新書

映画の字幕翻訳家・太田直子氏による、読みやすいエッセイです。著者は、英語の映画だけでなく、最近のロシア映画の字幕翻訳でも活躍されています。字幕翻訳の現場の様子だけでなく、(売るためには、字幕で結末を変えてしまおう！とまでする) 配給業界の裏側もちょびっとのぞけます。

でも、この本の本当のテーマは、言葉へのこだわり。制限された条件の下で、伝えたい意味や気持ちをいかにして表現するか、ということにあります。この本を読んだあとは、メールの文章にもちょっぴり気をつかったりするようになるかもしれません。



国際教養学科

水上則子

## 戦争と平和 (一～四)

トルストイ  
新潮文庫

トルストイは立派な作家だけれど、「戦争と平和」は長すぎる。

大学生の頃、半ば義務感で読み終えて以来の持論でした。

ところが最近、ちょっとしたきっかけがあって映画の「戦争と平和」を観たところ一これまた「長すぎる」映画で、全部で 431 分 (!) あるのですがどうしても読み返したくなかったです。そして今度は、長いなどと思う暇もなく、夢中になって読みました。四巻に入ってから、もう終わってしまう、と残念でならないくらいでした。こんなすばらしい小説をずっと敬遠してきたなんて、本当にもったいないことでした。

もし、読んでみようかな、と思う方がいたら、時間のあるときに一気に読むことをお勧めします。今でなくても、たとえば 20 年後、いろいろな喜びや苦しみを経験してから手に取るのもいいと思います。こういう書物の価値は、100 年、200 年経っても変わりませんから。



## 路上

ジャック・ケルアック

河出文庫

ぼくがアメリカの小説ベストテンを選んだらぜったい入れたい一冊です。この小説は、アメリカの広さを実感できるロード・ムービーならぬ、ロード・ノベルで、文体もすごくスピーディ。作者のケルアックは、インスピレーションが浮かんだときに紙がなくて、急いでトイレット・ペーパーをタイプライターにはさんで、キーをひたすら打ち続けてこの小説を書いたらしい。そのリズムを感じつつ、大地をイメージしつつ、ときどき、アメリカの地図を広げながら読み進めてほしい。テーマは、旅。そして出発。主人公たちは、動き回ります。ハッピーエンドを無視し、ぼくらは何度でもスタートをきる。幸せである必要はない。

## 善の研究

西田幾多郎

岩波文庫

高校三年生の秋に偶然手に取り、読んで驚嘆しました。これは哲学の本なのだけど、こんなことまで考えていいんだと。世の中にはときどきすごいことを堂々と考えている人がいてびっくりします。ぼくは、それまでそういうすごいことはこっそりと考えるものだと思っていたのだけど、違ってた。堂々と、考えている。そして美しい。読んでいて興奮してきて、それがきつくて何度も本を閉じました。「あー」と。一度も最後まで読んだことはありません。世界について、世界全体について考えたりしたことありますか？

特集

# 私が泣いた本

甘い涙、苦い涙  
ぼろぼろの涙、うっすらの涙  
顔には出さずに  
心の中で流す涙・・・

あなたの涙はどんな色ですか

前半は書き下ろしです  
後半では、過去の「どこでもドアのかぎ」で  
語られた涙をご紹介します

## 存在の耐えられない軽さ

ミラン・クンデラ (著)  
集英社

1960年代末のプラハを舞台に医師トマーシュとタイプの異なる2人の女性テレザとサビナとの恋愛の行方をベースに、冷戦下の若者たちの民主化の要求と弾圧を描いた小説です。ずいぶん昔に読みました。とにかく美しい文体で、まるで著者のことば一つ一つに脳を撫でられるような、気持ちいい感覚(?)で、あっという間に読みました。クンデラって、詩人で、歴史家で、思想家で、そして脳外科なのね…そう思いましたっけ。泣いたところ?とりわけ、サビナの飼っていた犬のケレーニイが死んでしまうところ。その当時、我が家でも猫を飼っていて、可愛がっていたせいでしょうか。ケレーニイへの愛は無条件の愛だったとサビナが気づくのですが、もう、ぼろぼろ泣けました。ぜひ、クンデラのことばに撫でられながら泣いてください。

英文学科 小谷一明

## 凍える口

金鶴泳  
クレイン

金鶴泳は高崎市新町の出身で、父の暴力、自らの吃音に苦悩した経験を、小説で描いていきます。作品のほとんどは短編です。金鶴泳『土の悲しみ』にも「緩衝溶液」や「弾性限界」などの心を打つ作品が収録されています。榛名山から吹きささぶ風、上州の川縁の風景が目には焼き付きます。読み始めた頃は、ため息ばかりでした。2008年2月から1ヶ月半、群馬県前橋と高崎の間に位置する土屋文明記念文学館で、生誕70年の企画展示が催されています。展示場には金鶴泳が愛したあじさいの写真と、同郷の詩人萩原朔太郎によるあじさいの詩が掲載されていました。なおクレインは2007年に『佐藤泰志作品集』を出して評判となった小さな出版社です。これも初めて読み始めましたが、すばらしい作品集です。

## A Thousand Splendid Suns

Khaled Hosseini  
Bloomsbury

2年前にカーレド・ホッセイニというアフガニスタン系アメリカ人の作家が書いた小説「カイト・ランナー」(The Kite Runner)はアフガニスタンの最近の紛争を描いて、特に子供の立場からのその国の生活を紹介した。平和の日本で暮らしている私たちが想像できる以上にタリバン政権の下で恐ろしい社会の描写として強い衝撃を与える小説です。9・11以降で世界情勢に対して意識が高まったアメリカでは人気本になって映画化されました。2008年に公開されるでしょう。

そして2007年にカーレド・ホッセイニの2番目の小説「A Thousand Splendid Suns」が出版されました。同じアフガニスタンを背景として、今回女性の立場から描かれていて2001年までのタリバンの敗北までのシナリオです。十数年に遡って2人の若い女性が同じ未亡人の残酷な年寄りの男性と強制結婚させられて、ドメスティックバイオレンスを受ける彼女らの非常に悲しい日常の経験を語ります。その上、小説の上途中から宗教の原理主義のタリバンが政権を握り、社会レベルから女性への暴力が描写される。例えば、女性達は自分で出かける権利を奪われ、男性と一緒に出かけても全身を隠してブルカを着る義務を付けられた。読みながら血が冷たくなるぐらいとんでもない歴史を直感で理解させる。

こんな小説を読む価値は一体何でしょうか。まず男性から女性に対してあらゆる暴力が許されないと思い出させる。それに私達の狭い世界にはまだまだ苦しんでいる人々が数えられないほどいると改めて分かってしまう。例えば2008年一月末に同じアフガニスタンにはある23歳の大学生の男性は女性の権利を勉強したくて、それについてのファイルをダウンロードしたという「罪」のために捕まって裁判で死刑判決になった事実が報道された。私は各国の大学生はこんな情勢を知る必要があるじゃないかなと感じている。日本は自由に勉強できる国ですが、皆さん本当に自由に生きる意味を理解してほしいと思います。そこでこんな作品をお勧めしたい。日本語の訳はまだ公開されていないけど、是非カーレド・ホッセイニの名前を覚えて下さい。

# Atonement

Ian McEwan  
Vintage

高い評価を集めている現代イギリス作家のイアン・マキュアンの小説は全て page-turner（おもしろくて一気に読める本）だと言えると思います。もっとも有名な作品の題名は ATONEMENT（贖罪）です。2002年に書かれた小説です。イギリスの1930・1940年代時代を背景に上級階級の家族のドラマを語る。この家族の長女のシシリアと召使の息子のロビーが秘密に恋に落ちて幸せになる。しかしある日シシリアの幼い妹のプライオニーちゃんは2人の恋人の些細な喧嘩の場面をこっそり見て犯罪を目撃したと勘違いして警察は巻き込まれる。ロビーが逮捕されてしまって大惨事になる。その後、家族の絆はおじゃんになり痛ましい結果になる。プライオニーはこのことを人生を通して深く後悔（atonement）し続ける。。。

この小説は当時の保守的なところを絶妙に見せておりなおかつイギリス現代社会にも響くところが感じられる。そのためこの小説は人気を集めた一つの理由だと思えます。大変悲しい話ですがヒューマンドラマとして抜群です。

2007年に映画化されて非常に優れた作品らしくてアカデミー賞を受賞する可能性が高いと言われている。シシリアの役割を演じるのは話題女優のキーラ・ナイトレイなので是非見てください。でもその前にこの上品な小説に挑戦したほうがいいです。

生活福祉専攻 小澤薫

## 若者が働くとき

熊沢誠  
岩波書店

大学を退官する著書の若者・学生にたいする温かさが痛いほど染み渡ってきました。仕事を取り巻く環境が厳しい若者にたいして、温かいエールを送っています。「社会」に出会っていくこと、仕事とは「社会の人びとに喜ばれる営み」であること、「ともにしんどい思いをしているなかまがいる」こと、そんな彼らと協同していくこと、そういう気づきを促しています。さまざまな気づきは漠然とした不安を和らげてくれます。

国際教養学科 黒田俊郎

## シーシュポスの神話

アルベール・カミュ

新潮文庫

わが青春の書。読み終わったときの感動は、未だ忘れられない。

カミュの本は、みんな泣けるけど、もう一冊挙げるなら、『最初の人間』（新潮社、大久保敏彦訳）かな！未完の自伝小説で、カミュを最初に読むのならこれがベストかも。なんで文庫化しないのだろう。あと「泣ける」のではなく、小説のなかの涙が印象的なのは、安部公房の『箱男』（新潮文庫）。大都会の片隅で箱男が静かに涙を流す。そういえば、カフカの『変身』も涙なしには読めなかったな。マンガだけど『岳』（石塚真一、小学館、6巻まで刊行）も泣けますよ、とっても。

## ハイネ詩集（井上正蔵先生訳）

### ハインリヒ・ハイネ

（手に入らないだろうから図書館で！）

私が東京都立大学の1年生の学年末、人文学部ドイツ文学科の教授を務めていらした井上正蔵先生が定年退官なさいました。私はそれからさらに4年の間、都立大学のドイツ文学科に在籍していましたが、井上先生の講義に出させていただいたのは、この学年末の最終講義一回きりです。しかし、都合5年の大学在籍中もっとも印象に残った講義は、先生のこの日の最終講義でした。ハイネ研究の第一人者でいらした先生は、ハイネの作品、“**Laß die heiligen Parabolen**”（＝「神聖な寓話を」）を取り上げられました。「神聖な寓話を捨てよ、敬虔な仮説を捨てよ！」で始まる激しい政治詩です。幸福な者たちが馬上から睥睨する下を、貧しい者が血を流しながら十字架を背負って歩まなくてはならないのはなぜなのか、答えろ！ とハイネは神に答えを迫ります。そして最後のフレーズは、「だから俺たちは絶えず問い続ける／奴らが土くれを手に／俺たちの口を塞ぐまで／さあ、答えろ！ さあ！」。世の理不尽な攻撃が私に意に沿わぬことを強要するとき、私は井上先生のお顔を思い浮かべながら、この詩をつぶやきます。すると、目頭が熱くなるのです。これで、戦闘準備完了です。この一年で何度この詩を口ずさんだことか。さあ、後は実戦です。どっからでもかかってらっしゃい！

# レヴィンの水車

ヨハネス・ボプロウスキー  
河出書房新社

旧東ドイツという国家は、形式的にはありましたが、複数政党が存在することになっておりました。その、形式上存在を許されていた弱小政党の経営する出版社に勤める詩人だったボプロウスキーが、はじめて出版した小説がこの作品です。しかし、これに続く『リトアニアのピアノ』という作品を発表して国際的な評価が高まり始めたその時、彼は病に倒れ、夭折してしまいます。

ドイツの東からロシアにかけての地域は、現在のバルカン半島同様に、民族と文化が複雑に入り組んだところでした。プロイセン王国の本拠地だった東プロイセンは、現在のロシア領であるバルト海沿岸にありました。リトアニア、ラトビア、エストニアのバルト三国は、中世にはドイツ騎士団領であり、ハンザ同盟都市として栄えた街もあり、近世になってブランデンブルグ大公国となります。ドイツ・ポーランド・リトアニア・ウクライナ・白ロシア等の国々が興亡を繰り返し、民族と文化は混交していきます。ボプロウスキー自身も現在のポーランド北部の出身で、戦争と国家の興亡のせいでベルリンへと移住してきたドイツ系ユダヤ人の末裔でした。

父祖の地をめぐるフォークロアに満ち満ちたこの作品には、ドイツの植民政策への批判が込められています。違いを違いとして認めつつ、違いを持った者同士が相互理解のもとに共存する未来をどうやって作ったらよいのか？ 本当の意味でのグローバルリズムというのは、こういうことを考えることを指しているはずで、苦い過去の歴史を取り扱いながら、しかし静かな希望に支えられた美しい物語です。

# 実存主義とは何か

J. P. サルトル  
人文書院サルトル全集

サルトルで泣ける人というのはとても変な人だ、とは自分でも思います。やはり大学1年の秋、雨のそぼ降る上野駅で（まだ新幹線も通っていなかった！）仙台行きの特急「ひばり」を待ちながらこの本を読み始めたときは、大人になることへの不安に足元がふらついて、胃がしくしくと痛んでいました。こんな状態で仙台の友人のところなど訪ねられるのだろうか？ でも、特急が福島を過ぎたあたりで、「君は自由だ。選びたまえ」という文章を読んで、ちょろっと涙がこぼれて、それで元気になりました。この文章に出会って、わたしは大人になっちゃったのかもしれない。「人に何とと言われても、私は選んじやうんだ。文句あつか！」と居直ってしまったのですね（普通は、こういうことを言ってるうちは大人じゃないと言われるのでしょうか）。人間を定義する神が存在しない以上、人間は自由なのだ、というのがサルトルの実存主義の主張でした。しかし、これは「だから孤独なのだ」ということと同義です。それに、自分が何者なのかは、自分が自分をどういう人間に作り上げたかで決まる、ということでもあります。「さみしいよう、さみしいよう」と言ってる学生の泣き言をしばしば聞かされている私としては、「だから君は自由なんだよ」と言ってあげたいと思います。人が卑劣なのは、その人が自分を自分の行為でもって卑劣な人間にしたからです。そうなるのがイヤだったら、では君はどんな人になりたいの？ 人が自由だということは、自分の自己を作り上げる孤独な自由のことです。「私」とは、私自身がそうなりたいと考え、そう行動した結果なのです。……ああ、すっきりした。そういえば、サルトルが死んだのも1980年でしたっけ。ジョン・レノンが射殺される8ヶ月前のことでした。

## がんと向き合って

うえの はじめ  
上野 創  
晶文社

26才の新聞記者が突然ガンの告知を受けた。自分はこの先どうなるかわからない。しかし、恋人の彼女は「大丈夫。私がついている。結婚しましょう。」と笑顔でプロポーズし、彼と共に逆境に立ち向かった。

「病気になる前は、鈍感な「強者」になっていた自分に気がついたのも、世の中の苦しみや悲しみに思いをはせるようになったのも、すべてガンがきっかけだった。花や木々の色、風のおいや雨の音に敏感になった。移りゆく季節を味わい、惜しんでいる自分がいる。」本文より

彼は、3度の再発、3年間の闘病に耐え報道の第一線に復帰している。病気に立ち向かった勇敢な患者であり、「どう生きたらよいのか」と問いかけ、愛と勇気と励ましを送る本です。

私たちは病気になるって初めて、健康のありがたさを知る人が多いのですが、病気（がん）になってなくとも、日常性の中で、周囲の木や花などの風景に感謝し、味わい深く（?読む人によって感じ方は異なると思います）生きていけたらと思います。

朝日新聞神奈川版で大反響を呼んで、ファルマシア医学記事賞受賞作品です。

国際教養学科 水上則子

## 世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド

村上春樹  
新潮文庫

この本は、「どこでもドアのかぎ」第3号でもお薦めしています。そのときには触れなかったのですが、最後の章で、「大佐が大切にしてきた帽子」についてのみじかい描写を読んでいたら、不意に涙が出たのでした。理由は自分でもよくわかりません。「世界の終わり」の住人である大佐は「心」を持っていないはずなのですが、誠実で親切で、新入りである主人公を支えてくれた人物でした。そんな大佐に大切にされている帽子のなかに、大佐が失ったはずの「心」を感じたのかもしれませんが、もちろん空なのですが。

国際教養学科 柳町裕子

ペン

引間徹  
集英社

本の帯に『誕生「ぬいぐるみ文学」』とあるように、なんと、ぬいぐるみ（ペンギン）が主役の小説です。朝出かけるとき、ぬいぐるみに「それじゃあ、行ってきます」と声をかけたり、自分がないあいだ部屋のぬいぐるみたちは何をしているのだろうかときどき想像したり、デパートなんかで動物の着ぐるみが歩いていたら、ついつい後を追ってしまったりするあなた、そんなあなたはこの小説をさいごまで冷静に読むことはできないでしょう。最初に読んだとき号泣した私は、今はもう、表紙に描かれたペンギンの後姿を見ただけでうるうる(@@)してしまいます…

## ペリクリーズ

ウィリアム・シェイクスピア

『ハムレット』や『ロミオとジュリエット』などでお馴染みのイギリスの劇作家ウィリアム・シェイクスピアが晩年に書いた作品に『ペリクリーズ』があります。私が最初にこの作品読んだのは大学生の頃だったと思います。正直言って、彼のその他の作品にくらべてドラマチックなシーンに欠けた単調な作品だったので感動はしませんでした。二度目に読んだのは三十代でしたが、その時は何か「胸のあたりに鈍いもの」を感じました。その後、いや、そのずーっと後の2003年5月、この作品のロンドン公演で高い評価を得た演出家蜷川幸雄が新潟で公演するという事になったのです。あわててチケットを購入しようとしたが既に完売で、やっと手に入れた席は二階のワキから舞台を見下ろすあまり良くない席でした。蜷川幸雄と言えば世界的に有名な演出家ですが、彼の作品は出来不出来があります。若い役者を使うので「追っかけファン」も結構いるようです。しかし、このときの『ペリクリーズ』には感動しました。三十代で感じた「胸のあたりの鈍いもの」が何だったのかははっきりしたのでした。

タイアという国の若き王ペリクリーズ（内野聖陽）は強国アンタイオカスの王とその娘のただならぬ関係を知って命を狙われる。彼は自国に災いがおよぶのを避けようと数隻の船とともに旅に出る。旅の途中で嵐に遭い難破してペンタポリスという国の浜辺に打ち上げられる。親切な漁師に助けられ、その国の王の面前で行われる剣術試合に参加するという機会にも恵まれる。試合で見事に勝ち、王の娘タイーサ（田中裕子）の愛を勝ち得て結婚することになる。やがて本国タイアからの知らせがペリクリーズに届き、アンタイオカスの王と娘が事故死して、本国タイアではペリクリーズ王の帰還を望んでいることを知る。ペリクリーズは身重の妻を船に乗せて本国に向かうが途中で激しい嵐に遭い、妻は船上で女兒を生み死んでしまう。ペリクリーズは悲しみの中に妻を立派な箱に入れて海上に投じた後、危険な航海に耐えることができない生まれただけの娘にはマリーナ（海）（田中裕子 二役）と名付け、タルンの王と王妃に預けて航海を続ける。

月日が経ち、ペリクリーズが娘を連れ帰ろうとタルンに行くと、娘マリーナはすでに亡くなっており、彼は墓の前で絶望する。こうして愛する妻子を失ったペリクリーズは廃人ようになってさすらいの船旅に出る。途中で寄った国ミティリーニの太守がこの不幸な王の話聞き、王の閉ざされた心を開かせようと歌の上手な一人の娘をつれてペリクリーズの船を訪れる。最初は歌を拒否した王も次第に心が癒されていき、娘の不幸な身の上話から彼女こそが死んだと思われていた娘マリーナであることを知る。さらには、海上で死んだと思っていた妻がある国の医師に助けられており、ペリクリーズは妻とも再会することになる。

『ペリクリーズ』という劇のプロットは他のシェイクスピア劇にくらべてやはり単調です。しかし、長い試練の後に亡くなったと思われていた者が蘇る劇なのです。ペ

リクリーズにしても精神的には死んだも同然の状態から次第に蘇っていくのです。「再会」と「再生」がこの劇のテーマです。蜷川はこの場面を音楽と照明で見事に演出しました。傷心の中に衰弱したペリクリーズを内野聖陽は上手に演じました。ペリクリーズがマリーナとの「再会」によって「再生」するその場面で、私の目から涙は咳を切ったように流れました。最後に愛妻との「再会」のときも同じでした。芝居が終わった後のカーテンコールは当然観客全員によるスタンディング・オベーションでした。二階脇にあった私の席からは、老若男女の観客の涙が照明に照らされて美しく光っているのが見えました。あんな良い席に座れることはもうないでしょう。

生活福祉専攻 植木信一

## そこにいますか 日常の短歌

穂村弘  
岩崎書店

『『心臓が止まりました』子供電話相談室に告げる純平』（前島隆行）

本当に心臓が止まったら死んでしまうから電話なんてできないよ。あなたはちゃんと喋っているから、たいじょうぶ。子ども電話相談室の先生にそういわれてしまいました。そうかなあ、たしかに止まっている気がするけどと思っていると、突然、同じクラスの純子ちゃんから電話がかかってきました。どきどきどきどき。あ、本当だ。動いている。

## 東京奇譚集

村上春樹  
新潮社

初めて手にした本書を新潟市内某書店で読んでいた最中に義母（はは）が夫の郷里で倒れたことに思い至ったのは、その日 2005 年 10 月 21 日、帰宅後に義兄（あに）からの留守電を聞き、帰郷の準備を終えた後しばらく経ってからのことだった。義母（はは）の意識が回復してほしいと願いながら、本書「ハナレイ・ベイ」でのサチと息子の関係、今まだ意識のない義母（はは）と夫との関係、映画「眠る男」での母親と主人公である息子の関係、そして私と思春期に入りかけた息子の関係が時おり四重奏のように脳裏をよぎりつつ、家族とともに足利に向かう車中を言葉少なに過ごしていた。それから毎週末に病院で義母（はは）との会話を試みたが願いは叶わず、11 月 6 日早朝に義母（はは）は意識が戻らぬまま永眠した。その後、ながらく本書を手にすることはできなかった。2007 年 6 月 23 日、怪我をした娘の送迎に訪れた中学校の玄関脇で彼女を待ちながら、あの時と同じように立ち読みできたのは、時の流れの恩恵かもしれない。あの時と違うのは、6 月の風を肌で感じながら途中（「偶然の旅人」での彼のルール）で涙し、娘から呼びとめられ中断したものの、その日のうちに本書の 5 つの物語すべてを味わえたことだった。今でも、2 つの情景—某書店と中学校での読書場面—をそれぞれ映画の 1 シーンのように思い浮かべることがある。

英文学科 福嶋秩子

東京タワー オカンとボクと、時々オトン  
リリー・フランキー  
扶桑社

ある夜ふと読みだして、一気に読んでしまい、思わず泣いてしまった本。リリーが描くオカンはとっても魅力的で面白い人である。クスッと笑いながら読んでいるうちに感情移入してしまった。

手紙

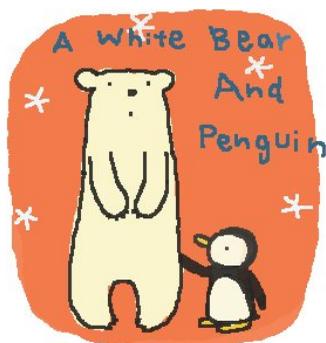
東野圭吾  
文春文庫

ワイドショーでは毎日のようにいろんな犯罪の報道がある。けれども、犯罪加害者の家族に思いをいたすことはほとんどない。私たちが無意識に正義を振りかざすとき、あるいは普通と普通でないの間に線をひくとき、何が起きているのかを目の前につきつけられる本。

# 私が泣いた本

～バックナンバーより～

県短を去られた先生方については  
在籍時の所属を、☆印をつけて記載しています



❖ 第 2 号所収

幼児教育学科 大桃伸一

## 太陽の子

灰谷健次郎  
理論社

「何度も涙を流しながら読み、心が洗われる」作品(学生の report より)です。まだ読んでいない人は、是非読んでほしい作品です。



❖ 第 3 号所収

☆英文学科 岡村仁一

## 八月の光

フォークナー  
新潮文庫

今世紀を代表するアメリカ文学最大の作家、ウィリアム・フォークナーの三大傑作の一つ。最も実験的な要素が少ないと言われているが、それだけにフォークナー入門書としては最適。主人公の一人、ジョー・クリスマスと共に夜の町をさまよい、リーナ・グローヴと共に涙しながら読み進むうちに、必ずやフォークナー文学の虜となること請け合いである。

❖ 第 4 号所収

☆国際教養学科 山根麻紀

## クオ・ワディス (全 3 巻)

ヘンリク・シェンキェヴィチ  
岩波文庫

暴君ネロの君臨するローマ帝国を舞台に、キリスト教の迫害を描いた長編小説。全編まるで映画を見ているような鮮やかな筆致。でも主題は歴史というより人間の魂です。激動の時代の中で、登場人物がどのように変容していくか、人間の弱さとその魂の本質的な気高さが、見事に描かれています。ちょっと長いですが一晩で夢中で読み、途中で幾度も涙してしまいました。1905年ノーベル文学賞受賞作。



❖ 第 8 号所収

国際教養学科 石川伊織

## 天才柳沢教授の癒セラピィ

川寄克哲+山下和美  
講談社

サイコセラピストが読む『天才柳沢教授の生活』。柳沢教授は論理的に考えて論理的に行動する、ちょっと困った人です。まわりにこんな人がいたら、それは困りますよ。ですが、教授は論理的なだけで血も涙もない人ではない。そこが、教授が好かれる理由なのでしょう。でも、やっぱり、教授の思考と行動は、普通の人とは「ズレ」ています。サイコセラピスト川寄さんは、そこが癒しの効果を生んでいるんだと分析します。教授は意図してずらしたり、ズレたりしているわけではありませんが、意図しないこのズレが、袋小路

で行き詰っている人と衝突して、袋小路を解消していく。それがこのマンガの面白いところなんだそうです。それも読めるな、と思いました。原作者の山下和美さんと共著です。これはもう、原著者のお墨付きです。でも、本当にそれだけかどうかは、読んでみてから考えましょう。原作者が自分の作品を誤読してるかもしれませんしね。



❖ 第 8 号所収

★幼児教育学科 石垣健二

## 「あと一球っ！」の精神史

井上章一  
太田出版

昨年 9 月 15 日。ボクは、テレビの前でグッと涙をこらえていた。とうとうやってしまったのだ。四半世紀トラ一筋で生きてきたボク自身は、やはり著者と同様、阪神を自分のかかえた業とあきらめ、「一生、このつらい宿命といっしょに生きてゆく、そんな覚悟ができて(著者談)」いた。それなのに「どうしたらええんですか。業が業やなくなりかけているんですよ(著者談)」。

著者は、自虐的ともいえる阪神ファンの心理をまったく痛快に語ってくれる。ボロカスに阪神(球団)をののしりながらも結局は見捨てることができない、そんな人間の泥臭さ。巨人ファンにはとうてい理解できないだろう。ボクはそこに究極の愛の形をみてしまう。最近のにわか阪神ファンの皆さん！これがわからないというなら、ボクは、君を阪神ファンとして認めない。

## ギリシア神話を知っていますか

阿刀田高  
新潮文庫

阿刀田先生の人気シリーズ新潮社版古典教養講座も昨年8月に上梓された『コーランを知っていますか』で8冊目。ちなみに7冊目までを刊行順に列挙すれば、『ギリシア神話を知っていますか』『アラビアンナイトを楽しむために』『あなたの知らないガリバー旅行記』『旧約聖書を知っていますか』『新約聖書を知っていますか』『ホメロスを楽しむために』『シェイクスピアを楽しむために』であり、『コーラン』以外はすべて新潮文庫で入手可能。これにくわえて『私のギリシャ神話』(集英社文庫)と『楽しい古事記』(角川文庫)まで揃えれば、コレクションは完璧となる。いずれも楽しく、ためになり、一読に値する。そのなかで一冊選ぶとすれば、やはり1978年刊行のシリーズ第一作『ギリシア神話を知っていますか』であろう。巻頭の「トロイアのカッサンドラ」から終章「古代へのぬくもり」まで、全編阿刀田先生のギリシアへの愛に満ちあふれ、読者はギリシア神話のゆたかな物語性に魅了され、陽光きらめくエーゲ海へと一刻も早く旅立ちたくなるだろう。この本の成功なくしてはシリーズ化もありえなかっただろうことが納得できる。ギリシア神話のヒーロー、ヒロイン総出演の第一級の入門書であり、とにかく面白い。さらにソフォクレスは当たり前として、ラシーヌやジロドゥなんか引かれていところも、演劇好きで仏文出身の阿刀田先生の趣味がでていて微笑ましい。ハリウッドの超大作『トロイ』の公開も控えているし、『指輪物語』(第3部「王の帰還」は感涙ものだったね)のつぎはギリシア神話がブームになりそうだ。そうすれば、この本なんかまた売れるんだろうなあ。ちなみにホメロスの英語名はホーマー、ホーマーという名の主人公がでてくる映画にジョン・アーヴィング原作・脚本の『サイダーハウス・ルール』がある。全然関係ないけど、これもいい映画だから機会があればぜひどうぞ。監督はラッセ・ハルstrom、今年のアカデミー主演女優賞のシャーリーズ・セロンがとってもチャarming。

❖ 第 8 号所収

国際教養学科 水上則子

## 西の魔女が死んだ

梨木香歩  
新潮文庫

「泣ける本が読みたい」というリクエストがあったと思いますので、一冊挙げてみます。「西の魔女」は、主人公である少女の祖母のあだ名です。おばあちゃんの家で過ごした「魔女修行」の日々、少しだけ心がゆきちがったままおばあちゃんと別れてしまった悲しみ、そして・・・最後の5行が胸にしみます。少し痛いくらいに。



❖ 第 9 号所収

幼児教育学科 角張慶子

## 我らが隣人の犯罪

宮部みゆき  
文春文庫

作者は長編作「理由」で直木賞を受賞したミステリー作家ですが、彼女の作品を読むたびにミステリー作家であるということを忘れそうになります。彼女の長編を読むと、様々な人の人生が丁寧に描かれていて、それが寄せ集まって一つの話となる「人生の短編集」のような印象をいつも受けます。なぜか切なさとしてときに優しさを感じるのです。また、彼女の書く短編小説はミステリーなのになぜか泣けてくる。そして文章の運び、テンポが大変心地いい。この本で言うならば、三編目に収録の「サボテンの花」などは、“ん～～”とうなった後、何度も何度も読み返すとより味わい深くなる、そして誰かに伝えたいくなる、そんなお話のような気がします。

❖ 第 10 号所収

生活福祉専攻 小池由佳

## 口からうんちが出るように手術してください

小島直子  
コモンズ

…こんなショッキングな題をつけた本が出版されていていいのか。本屋で見かけたときの第一印象はこれ。でも読んでみたら、この題の気持ちが痛いほど伝わってきた。誰だって女の子は大好きな彼の前では、デートの時にはかわいい女の子でいたい。そのために何日も前からドキドキしながら一番かわいい自分を見せるために用意する。そんな当たり前のことが”しょうがい”があるから予想外のことが起こってしまうという現実。でも直子はそこで止まらない。あるがままの姿で女性として生きていくことを、泣いたり笑ったりしながら自分なりに作り上げていく。そんな直子のことが、あとがきではこう書かれている。「だって直子は宇宙人」。



❖ 第 10 号所収

国際教養学科 石川伊織

## エリユアール詩集

ポール・エリユアール

エリユアールの「自由」という詩を大島弓子さんのマンガ『ローズティアー・セレモニー』で読んで、不覚にも泣きました。最後のページ一面に舞う花吹雪。きっと桜なのだと思います。三月末の高校の実力試験でしょうか。早咲きの桜の花の上に、「わたしは生まれた お前に名づけるために 自由よ!」という詩の最後の 2 行が記されています。花の下には、処分覚悟で

試験をボイコットして校庭に飛び出してくる全校の生徒たち。このページには、何のために勉強なんかしてるのかという、その答えが示されています。エリュアールはフランスのシュル・レアリスムの詩人。第二次世界大戦中はナチス・ドイツに抵抗する詩をたくさん書いています。この人の作品にもいろいろな訳があります。小沢書店からは宇佐美斉さんの翻訳が出ていますし、彌生書房からは山崎栄治さんの、飯塚書店からは嶋岡晨さんの訳が出ています。朔北社からはこやま峰子さんの訳で「自由」の詩の絵本が、『自由』のタイトルで出ています。



❖ 第 11 号所収

国際教養学科 田中景

## ハツカネズミと人間

ジョン・スタインベック  
新潮文庫

20世紀初頭のカリフォルニア。農場を転々と渡り歩く2人の労働者。小柄で賢いジョージと力持ちで子どものように純粋なレニー。対照的な2人は、いつか小さな農場と家を持ち、ウサギを飼って暮らすという夢をあたためている。2人はある農場にたどり着き、そこに働く様々な人々と出会い、やがてある出来事が起こって…。スタインベックの人物や情景の描写は穏やかで、そして物語の運びはとても淡々としています。なのに、最後には自分でも驚くほどに心動かされ、涙が止まらなくなっていることに気が付きます。

2007 年度卒業・2008 年度入学記念  
どこでもドアのかぎ 12

県立新潟女子短期大学生協

教職員委員会 編

表紙イラスト 平松麻矢

2008年3月21日 発行

### 編集後記

年度末は何かと忙しいものですが、今年は諸事情により、県短始まって以来!?!の大混乱の中で、第 12 号の制作が始まりました。原稿はなかなか集まらず、発行が危ぶまれるほどでしたが、どの先生のお顔にも疲労の色が濃いを見ると、無理に執筆をお願いするのも憚られました。

しかし、石原先生の退職記念号にさせていただくことが、先生には内緒の企画として決まった後は、次々と原稿が寄せられ、こうして例年以上のボリュームになりました。石原先生への御礼に記念号を発行するはずが、あべこべになってしまい、先生のおかげで第 12 号も形になったわけです。

石原先生、本当にありがとうございました。(M)